

ふくいのかい生活協

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)

TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2014年8月8日 No.104

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索



県連総会

General meeting

6月5日(木) 於:福井県教育センター 4階大ホール

福井県教育センター 4階大ホールにおいて第39回福井県生協連合会通常総会を開催しました。

当日は、福井県安全環境部企画幹 森川泰司氏にご来賓として出席いただきご祝辞をいただきました。開会宣言に続き、理事会を代表して竹生正人会長理事が挨拶し、以下の全議案が可決決定されました。

可決決定された議案

- 第1号議案 2013年度活動報告・決算報告及び
剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 2014年度活動方針及び収支予算決定の件
- 第3号議案 役員(理事1名)補充選任の件

今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



第18回 海岸クリーンアップ ボランティア募集

Let's clean the coast!

1 9月6日(土)
9:00~10:30
鷹巣海水浴場

2 9月13日(土)
9:00~10:30
三国サンセットビーチ

※いずれも活動は9時から1時間程度です。海岸清掃終了後は、みんなでゴミを分別し、集積します。

お申込み・お問い合わせは
福井県生協連合会まで。

協賛: 福井県企業等ボランティア・
社会貢献連絡会



7月7日(月)

福井県立大学で出前講義

『食の安全とくらしの安心で、地域へのお役立ち』テーマに

昨年、一昨年に続き、今年も福井県立大学の学生を対象に出前講義(90分)を実施しました。

「協同組合って?」「生協って?」の基本知識をおさえた後、生協が組合員のくらしだけでなく地域や社会、地球環境をよりよくするために地域や職場、学校などで事業・活動していることを、パワーポイントで具体的事例を示しながら話をすすめました。

後半は、福井大学生協 野尻専務理事より「大学生協って?」をテーマに、福井大学生協で行っている事業や様々な活動・取り組みを紹介し、「福井県立大学も、ぜひ大学生協設立にチャレンジしてください」とエールを送りました。



2014年

会員生協総(代)会議案書

ダイジェスト

第37回 通常総代会

2014年6月15日(日)
9:30 ~
福井県自治会館
多目的ホール

福井県
医療生協

健康で明るいまちづくり 環境とくらしを守るまちづくり

福井県医療生協は、この一年間、健康で明るいまちづくり・環境とくらしを守るまちづくり・東日本大震災支援・原発ゼロ・組織強化に取り組み、機関紙「けんこう」をひとり一人の組合員をつなぐ「わ」と位置付け、つながりを強めてきました。「健康チェック」は129回、1920人の方が参加され、みなさんの健康不安に寄り添ってきました。本年度も引き続き地域で旺盛に健康チェックに取り組みます。

県民の中にも貧困と格差が広がり生活保護受給者が過去最高となり国保料の未納者が増加しました。安倍政権による社会保障の改悪が広がる中で多くの支部・ブロックで助け合い事業が進められました。今年度も全組合員の顔の見える対話行動を進め全ての組合員に健康と生活にかかわる問題解決のために「参加と協同」を呼びかけます。

班・支部・事業所が、安心を支える地域の拠点＝たまり場づくりを進めます。

医療・福祉・介護制度の充実めざして自治体懇談や社会保障を守る取り組みをすすめます。

東日本震災・原発事故被災者支援や憲法問題、TPP問題に諸団体と共同して取り組みます。



第57回 通常総代会

2014年6月21日(土)
13:30 ~
(財)福井県教育センター
4階 大ホール

福井県
学校生協

創立55周年を迎えました

去る平成26年6月21日(土)午後1時30分より、(財)福井県教育センター4階 大ホールにて、第57回通常総代会が開催され、当日は、お忙しい中各支部より多数の総代のご出席をいただき、次の4つの議案が承認されました。

- 第1号議案 平成25年度事業報告及び決算関係書類承認の件
- 第2号議案 役員選任の件
- 第3号議案 平成26年度事業計画及び予算決定に関する件
- 第4号議案 役員報酬決定の件

総代、役員の皆様には、休日にもかかわらず多数ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

総代会にて承認いただきました「平成26年度基本方針・事業計画」に基づき事業を遂行いたします。

当学生協においては内部統制による基本方針等の整備も完了し、部門別リスク発生の対策等については、今後も引き続き見直し作業を行いながら、組合員から信頼される職域生協を目指します。

又、「学校生協第17次中期3ヶ年計画」において策定しました行動計画に基づき、新採用者・未加入者の組合加入を図ってまいります。

特に新採用者に対しましては、昨年度に引き続き各学校を訪問し個人面談方式での組合員加入推進活動や教職員組合の各地区総会(県内14会場)に出席し学生協のPRを行い、「利用される学生協」を目指し、組合員のための福利厚生事業に邁進してまいります。



第57回 通常総代会

2014年6月25日(水)
13:30 ~
福井県国際交流会館会議室

福井
県庁生協

6期ぶりの黒字決算迎える

第57回通常総代会は、6月25日(水)国際交流会館会議室において、開催されました。

小川理事長の開会挨拶の後、福井県安全環境部県民安全課 白崎課長、福井県生協連合会 竹生会長理事からのご祝辞をいただき、奥越健康福祉センター総代の山崎氏を議長に選任し、各議案について審議を行いました。

2013年度は、県職員等への一翼を担う活動の中、組合員の職場生活を支え、利便性の向上にお役立ちできる事業展開を行ってきました。しかし、組合員の職場環境も大きく様変わりしたことにより、店舗来店者の減少、日用品の受注が大きく減少し、供給事業・手数料事業とも減少が続いています。

このような状況の中でも、『食材のヨシケイ』の利用者増加、他県への迎春企画紹介などの要因により、共同購入の供給高は伸長しました。

2014年度事業計画については、まだまだ厳しさが続くと思われながらも、それぞれの部門の見直し強化を図り役職員一丸となりながら、次年度も黒字決算となるよう事業内容の抜本的見直しをすすめ、組合員のお役に立てる生協の存在をめざします。



第60回 通常総代会

2014年5月27日(火)
18:10 ~
福井大学教育系1号館

福井
大学生協

第60回通常総代会を実施しました

5月27日(火)に福井大学教育系1号館にて第60回の通常総代会を実施しました。当日は総代総数110名に対し、本人出席49名、書面出席52名、代理出席1名の合計102名の総代にご参加いただきました。

13年度の活動では、組合員と一緒に実施した50周年記念イベントの報告、新しくなったカフェテリア味菜を中心とした新店舗の利用状況をご報告いたしました。また当組合の学生組合員が立案した丼メニューがコンテストでグランプリを獲得し、50の大学生協で提供されたり、学生の研究の一環としてジビエ料理の提供を行ったりしたことをご報告いたしました。

14年度は大きな施設投資後続いていた単年度赤字経営を改善し、単年度黒字を実現することを方針として提案いたしました。また、学生教職員組合員の福利厚生を改善するために様々な調査活動、改善活動、教育研修活動を行っていくことを提案いたしました。

全議案、役員選挙ともに無事ご承認をいただきました。

なお、総代会後には総代交流会を実施し、今年度のメニューコンテストの福井大学代表を決定いたしました。



第44回 通常総会

2014年2月11日(火)
10:00 ~
菅浜農業構造改善センター

菅浜生協

「組合員の利用なくして生協の存続なし」

2014年2月11日(火) 第44回通常総会が菅浜農業構造改善センターで開催されました。当日は大変寒い中、招集組合員123名中96名(委任状、書面議決含む)の組合員が出席、全ての議案が原案通り可決承認されました。

冒頭、田中理事長より、「10月5日(土)に店舗の新装開店を行いオープンセールでは区内外の約240名の多くのお客様にお越しを頂きありがとうございました。」と挨拶がありました。今年度は店舗改装等により修繕費が増加したこともあり、H18年より続いておりました剰余金は8年目で欠損金を計上せざるを得ない状況となりました。

2014年度は消費税アップが実行され、それがどのように影響してくるのか不透明な状況となっております。又、店内・配達業務の増加等があり、その効率的な運営に努め「菅浜生協の存続」を念頭に最大限の努力を行ってまいります。



労済生協

2014年4月に額南支所が リニューアルしました。

保障に関するご相談やお手続きなど、お気軽にご来店ください。職員一同お待ちしております。

住 所/敦賀市新松島町4-11 大和田ビル
電 話/0770-25-6031
営業時間/月曜日～金曜日 AM9:00～PM5:00
(定休日:土曜日・日曜日・祝日・12/29～1/3)



A bill book digest of consumers' cooperative
A bill book digest of consumers' cooperative

第36回 通常総代会

2014年6月19日(木) 10:00～
県民せいきょう本部センター

福井
県民生協

ラブコープキャンペーンを通じてコープ商品のファンを広げます

書面議決を含め、総代491名の参加で開催。竹生理事長より、2013年度は、県内の世帯加入率が50%を超えたこと、事業高が過去最高、経常剰余金も計画を超えていることができ、創立35周年の節目にふさわしい結果となったことのお礼の挨拶があり、来賓を代表して福井県杉本副知事よりご挨拶をいただきました。

議事は13年度まとめ・剰余金処分、14年度方針、定款一部変更など5議案が提案され、全議案賛成多数で可決承認されました。14年度の特徴として、秋小浜市へのハーツ出店(介護や子育て支援施設を併設)、コープ商品の価値を伝え生協ファンを広げる「ラブコープ・キャンペーン」の展開、グループ会社で取り組んできた葬祭事業を8

月より本体に移管し、サービスレベルを発展させ、お役立ちを高めていきます。

2014年度の位置づけ

1. 安心と信頼のコープブランド価値を高めて、生協ファン層を広げます。
2. 組合員と地域社会に対して感謝し、感謝される職員組織をめざします。
3. 若狭エリアに複合施設を開設し、事業ネットワーク推進をめざします。
4. 8次中期計画を締めくくり、次期中計(2015年～2020年)を策定します。



福井県労済生協の総代会は、7月30日に開催されました。次号に掲載します。

役職員学習会

7月5日(土)
福井県国際交流会館にて

映画『体脂肪計タニタの社員食堂』上映報告

役職員学習会の一環として、「食と健康」をテーマに、ファミリーなどで楽しみながら学べる学習会として、関係団体と共催で開催しました。

この映画は、健康機器メーカー タニタが、社員の健康維持を目的にした社員食堂のメニューにまつわる実話をベースに、「もし、タニタの社員が全員太っていたら…」という着想を元に構成されたフィクション映画です。

昨年開催した科学ライター松永和紀先生「食の安全・安心」に関する講演会の中で、「食品添加物よりも、「過食・偏食」や「生活習慣病」が健康にもたらす影響ははるかに大きい」という指摘があり、健康長寿な福井づくりに貢献していくために、今回家族などで楽しみながら健康について話し合っていたくきかけとなればと、この映画会を企画しました。

当日は会員生協の組合員さんやご家族など約100名が観賞しました。



草に覆われ手が付け
られていない宅地

福島スタディツアー報告

7月28日(月)～29日(火)

福島で見聞きたことを、会員生協での「被災地を忘れない、伝える」取り組みに役立てていただくことを目的に、福井県生協連では『福島スタディツアー』を実施しました。

コープふくしまの今野理事長をはじめ、コープふくしま4名の方に同行していただきながら、被災地を案内していただきました。防波堤が破壊された村上海岸や壊滅的被害を受けた松川浦漁港、原発事故後避難指示が出た浪江町や飯館村、瓦礫撤去後、手つかずで草原のようにになっている南相馬市など、その場で受けた説明はとても重いものでした。(次号で詳しく報告します。)



「除染作業中」の旗



被災地支援 ボランティアバス運行

県民せいきょう

6月20日(金) 20時出発～6月22日(日) 24時帰福

福井県民生協では、東日本被災地支援としてボランティアバスを運行しました。生協の組合員や職員、一般県民の総勢28名が参加し、岩手県陸前高田市でおもに除草作業に汗を流しました。

21日

NPO法人「再生の里ヤルキタウン」
花画廊での除草作業・球根掘り

「再生の里ヤルキタウン」は、「憩える 集える 元気を発信する みんなのコミュニティ広場」をめざして、地元の有志の方々が創設されました。お花畑や野菜畑、オープン広場、カフェや店舗もあり、今は子ども達が集って学習できるスペースを準備中とのことです。

22日

オープンガーデン「花っこ畑」での除草作業

「花っこ畑」は、津波ですべて流された土地に再び花を咲かせようと、個人の方が活動されているところで、被災された方々がお花や土いじりで気を紛らわしたり、お話できるところになっています。「人間だから、(震災のことを)忘れちゃうのはしょうがない。でも、ボランティアに来られることで、また思い出して、周りの人たちに伝えてください」と代表の吉田さんが話されました。



▲巨大なベルトコンベアー

▼お花畑の側溝の除草作業



復興状況

陸前高田市の海岸近くは更地で、至るところに土を盛ってかさ上げする造成工事が行われていました。遠くの山から土を運搬する巨大なベルトコンベアーが頭上高く、あちらこちらに繋がっていて、多くのトラックが行き来していました。「被災された方々の生活再建はまだまだなんです。」と、「再生の里ヤルキタウン」の理事長 熊谷さんは何度も口にされていました。

参加者の感想

- 初めての参加で、瓦礫撤去のような大きな活動はできなかったけれど、支援の一人として少しでもお役に立てたことがよかった。
- 見渡す限りの更地に驚きを隠せなかった。復興支援の気持ちがさらに強くなるとともに、自分にできることを無理なく続けていこうと思った。
- ボランティアは参加するだけでなくその後が大切で、より多くの人に伝えていかなければいけない。

3.11 を忘れない

～被災地のいま～

ケアされない子どもたちへさらに支援を

みやぎ生協から被災地宮城のいまをお伝えします

子どもたちは、地震・津波の恐怖はもちろん、親や友人との離別など大人でさえ乗り越えるには困難な体験をしてきました。先ごろ河北新報社(宮城県に本社を持つ新聞社)が沿岸部の小中学校を対象に行った調査(※)では約7割の校長が「自校の児童・生徒に震災の影響と思われる問題がある」と答えています。

小林純子さん(災害子ども支援ネットワークみやぎ代表世話人)は、「震災後3年の間に再就職できたり自宅を建てたりして生活再建できた家庭と、未だに回復できていない家庭の状況はかなり異なり、それが子どもにも反映している」と言います。

震災で受けた心の傷が十分にケアされず、ストレスを溜めている子が多いこと。保護者の傷つき度合いが激しいほど子どもの気持ちは放置されがちなこと。そのなかで大人の様子を伺いながらじっと我慢している子どもたちが多いことを、小林さんは憂います。

また乳幼児へのケア不足も指摘します。「学校や幼稚園・保育園ではスクールカウンセラー、先生方が子どもを支えてきた

が、乳幼児はそうした組織的なケアがなかったため、震災体験を強く引きずっている母子がいる」。

なかには母親がうつ状態となったため、震災後に生まれたにも関わらず無表情などのうつ症状が出ている乳幼児の例もあります。「津波や地震を体験しなかったから大丈夫なわけではない。震災の影響は後々まで引き継がれていってしまう。これから10年20年とずっと見守っていくことが必要」と小林さんは訴えます。

震災体験を語り継ぐ一方で、傷ついた心は引き継がないようケアしていく努力が、関係者はもとより周囲のすべての大人に求められているのかも知れません。

※河北新報社が2013年12月宮城県沿岸自治体15市町の公立小中学校245校を対象に実施した調査



▲「子どもたちの心のケアは専門家じゃなくても構わない、家の人や近所のおじさんおばさんなどがよく話を聞いてあげるだけでもいい」と小林さん。